

令和7年度 第2回 早島支援学校 学校運営協議会 【記録】

1 日時 令和7年12月2日(火) 13:30~15:30

2 会場 岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者 ・学校運営協議会委員13名

・学校(事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、進路指導主事、交流ボランティアチーフ、指導教諭)13名

4 内容

(1)開会行事

- ①開会挨拶 <校長>
②日程説明 <事務局>

(2)説明・協議 <進行:会長>

○重点協議事項「地域に開かれた学校づくり」に関する取組の実施状況について

①安全班の取組について <担当教頭その他>

②進路班の取組について <担当教頭その他>

③地域交流・地域貢献班の取組について <担当主幹その他>

④その他

○質疑応答

○安全班の取り組みについて

- ・田野様:防災カバンの中身は?→3日分の衣類、食料、医療的ケアグッズ、落ち着くためのグッズ
- ・田野様:取り組みは長いですか?→長いです。100%ではないが、充実してきています。
- ・花元様:100%ではないことが衝撃です。当然のこととして準備してきました。
- ・江口:防災カバン置き場を体育館のギャラリーに作っている。冷蔵が必要な薬は冷蔵庫に保管している。酸素ポンベの備蓄を業者と連携してやっている。
- ・西田様:教員は?→呼びかけてはいるが100%ではない。
- ・校長:本校は、児童生徒に個別に対応する部分が大きく、学校で一括して非常時の物品の準備が十分にはできていない状況。そのため、保護者も教職員も個々の取り組みに頼ることになっている。
- ・上村様:合同防災訓練、今回が4回目ということですが、実際に参加してみました。昨年度よりは迅速に情報収集ができていたようだが、第3者から見ると、よくわからないところもあった。今後、学校以外の地域の方の受け入れをした時に、誰にでもわかるようになって行くと良い。→ビブスを活用しながら、役割が第3者にわかるようにしたい。
- ・上村様:ガスの発電機の使用訓練をしたが、どれくらい持つか、の質問に答えられなかった。色々な疑問点の回答は、いつもらえるか。→いただいた意見は、係で共有して検討しています。続けて取り組みながら、課題を解決していきたい。

○進路班の取り組みについて

- ・特に質問はなかった。

○地域交流・地域貢献班の取り組みについて

- ・野中様:花植えボランティアで植えたものを、飾ることもできます。いつでも言うだけで展示できます。→花を植えるだけでなく、ドライフラワーにしたり押花にしてお礼状にしたりしている。福祉協議会さんで飾ることができたら、さらなる地域貢献になるので、嬉しい。
- ・西田様:居住地校交流の実施率が年々上がってきているが、どのような取り組みをしているのか。→コロナが明けたこと、オンライン交流を含めて間接交流も進めている。年度内に次年度の案内をしたりしている。しかし、

感染症や医療的ケアなど、直接交流へのハードルはまだまだある。

(3) 各委員から

中島様:安全班の防災訓練は、地域の方や保護者の方が参加されたことは大きい。倉敷も防災公園ができたり、庁舎に防災棟ができたりと防災意識は高まっている。7月に津波注意報が出た時に、初めてのことで対応も十分にできなかった。注意報だったので、こちらからできることはなかったが、マニュアルが欲しいという意見もあった。色々な気づきをつなげていきたい。

野中様:前回、学校を知っていただく取り組みをしたらどうだろうか、と提案したが、早速取り組んでくれて素晴らしい。社協も、色々なことで協力をさせていただきたいので、遠慮なくご連絡ください。

羽原様:進路先の開拓ということで、色々な体験に取り組んでいるということですが、いろんなジャンルで幅広くリモートで行っていると感じましたが、コネクションの開拓はどうしているのでしょうか?リモートなら地域を関係なく、色々な所と繋がっていきませんか?と思いました。

→テミの販売元が ipresence さん

高等部が宿泊学習で特別支援課に行ったときに、何か自分たちにできる仕事はないか、と問い合わせたら、県立博物館と繋いでくれた。

昨年度行ったデジタルフェス時に、たくさんの方がきていただいた。その中で榎谷さんもフェイスブックで知ってきてくださっていて、本校の卒業生ということがわかって、声かけをしてくれた。情報発信をすることで、色々なご縁ができています。

中元様:学校の紹介ということで、いきいき広場等で子どもたちの作品を展示させていただいています。今回は、子どもたちの作品と共に学校の紹介をしたらいいのではないかと考えていただいたが、もっと広い場所でやってもらえたらよかった。反省会で意見を出そうと思います。これからもよろしく願いいたします。

平岡様:進路班で関わらせていただいているが、医療的ケア事業所交流会をしてもらえてよかった。相談支援をしているが、ヘルパーが足りない。今必要な方に必要な支援が行き届かない社会になっている。その中で地域のつながりが大事。福祉サービスだけでなく地域とのつながりが大事。福祉サービスだけでまかなえない部分もある。いろんな方と知恵を出しながら、取り組んでいくことが大事。

井上様:引き渡し訓練と居住地校交流に関心を持って聞かせてもらった。本校も引き渡し訓練もやっているが、やればやるほど課題が出てくる。教員全員に役割を振っているが、災害時全員が残っているわけではない。850人の引き渡しが完了するのはどれくらいかかるか。最後の1人を引き渡すまで、やれるか。

地域の方は、地域に支援学校に通っている子どもがいることを知らない。もし災害が起きたときは、いろんな家庭から迎えがくる。そう言う部分も含めて、地位域全体で合同で引き渡し訓練ができたらいい。引き渡しができない場合も含めて、いろんなパターンを想定しないといけないと思った。

田野様:早島4年目となるが、直接交流ができるようにするのが話題となっていたが、今回できることになった。懇談時の放課後の時間で部活として時間的にできるようになった。顧問が頑張っていて、ジャンボタクシーで来れるようになった。今年を成功させて、来年に繋げたい。

花元様:居住地校交流のことで、成績が悪いということですが、保護者側の意見としては、付き添いをしないといけないことが負担。この学校に来るなら、彼1人でいいが、居住地校交流となると、送って行って付き添いをして。となると仕事を休まなければならなくなる。居住地校交流そのものは嫌悪感はないが、同じ中学生とどのように交流するか、見通しが持てない。県が目標を作って進めてくる意味がわからない。あまりメリットが感じられない。進路のことについて、医ケアに絞った交流会は有意義だと思うが、県との意見交流会に行くと、医療的ケアに対応する事業所は少なく、増やすことは難しいと言われた。共生型の施設の見学もしたが、高齢者の方

が圧倒的に多いので、活動も高齢者寄りになったり、危なかったりするので、行きづらい。難しいと思いました。国の方で、福祉サービスの所得制限の撤廃が採択されない、ということになったが、障害児等のマイナーな部分が撤廃されないのがショック。岡山県奈義町の方がずっと訴えていたことがきっかけになったので、発信続けることが大事だと思った。

上村様:安全班の取り組みについて、実際に保護者として参加させていただいた。段取りしてマニュアルを作って、スムーズに訓練をされていたが、それは自分の目で見ているからイメージできるが、実際に災害が起こったときに、病院にいけたら、この対応ができるが、行けなかったら、ここでどうするのか、ということを実体的に考えることができたので、見える化できるといい。引き渡し訓練も、訓練ではスムーズにできるが、実際はそうはいかないこともある。それでも、引き渡し訓練に参加しない方や資料を見ない方もいると思うので、その方にも届くようにしてほしい。子どもたちがここにいることを地域や行政にも知ってもらって、知らなかったからできなかったが、ないように、地域にも本校の様子を知ってもらいたい。

(4) 閉会行事